

しだれ梅30本としだれ桜46本 ぎふしん記念財団が寄贈



柴橋正直市長から感謝状を贈られた住田裕綱
理事長(右)ら＝岐阜市役所

岐阜市から感謝状

ぎふしん記念財団は、岐阜市にしだれ梅30本としだれ桜46本を寄贈した。しだれ梅は、岐阜信用金庫との

ネーミングライツ(命名権)契約で4月1日から愛称「ぎふしん梅街道」となる同市の神田町殿町線に、しだれ桜は市内の桜の名所でもある同市伊奈波通の伊

奈波神社参道に植えられた。

しだれ梅としだれ桜は計約660万円相当。財団の地域貢献活動の一環として寄贈した。同神社参道のしだれ桜は、1987年に財団からの寄贈で植えられ、長く桜の名所として親しまれてきた。当時植えたしだれ桜の多くが老木となっていたため、今回の寄贈で植え替えられた。

25日には市役所で、柴橋正直市長が同財団の住田裕綱理事長に感謝状を贈呈。住田理事長は「しだれ梅としだれ桜を植えることで、地域が岐阜を代表する観光地になるための手伝いになれば」と述べた。

(小田香緒里)